『平家物語』の基礎知識

『平家物語』は**鎌倉時代**に成立した**軍記物語**。『徒然草』によると、信濃前司行長が作ったものとされるが、はっきりしない。平家一門の栄華と滅亡とが、人の世をはかないものとする仏教の**無常観**を基調としてえがかれている。

漢語を交えた文体で独特の調子とリズムがあり、読みものとしてだけではなく、**琵琶法師**とよばれる人々による語りものとしても親しまれた。琵琶の伴奏に合わせた『平家物語』の語りを**平曲**という。

『平家物語』冒頭

※祇園精舎の鐘の声、※諸行無常の響きあり。
祇園精舎の鐘の音には、諸行無常の響きがある。

※沙羅双樹の花の色、※盛者必衰の理をあらはす。
沙羅双樹の花の色は、盛者必衰の道理を表している。

おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。
おごりたかぶる者も長くは続かず、まるで春の夜の夢のようである。

たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに風の前の塵に同じ。
勇猛な者もついには滅びてしまう、全く風の前の塵と同じである。

※祇園精舎…昔、インドの須達長者が釈迦のために建立した寺院で、釈迦が仏教の教えを説いた場所。
諸行無常…万物は常に移り変わり、不変なものはないということ。
沙羅双樹…インド原産の常緑高木で、釈迦が亡くなったとき、床の四辺に二本ずつ植えられていたこの木が、悲しみのために白色に変わり、枯れたという。
盛者必衰…勢い盛んな者も必ず滅びるということ。

古文の読み方

●歴史的仮名遣い
①語頭以外の「は・ひ・ふ・へ・ほ」→「わ・い・う・え・お」
※語頭のハ行や、助詞「は」「へ」などはそのまま。
②「ゐ・ゑ・を」→「い・え・お」
※助詞「を」などはそのまま。
③「ぢ・づ」→「じ・ず」
④「くわ・ぐわ」→「か・が」
⑤助動詞や助詞の「む・なむ」→「ん・なん」
⑥母音（a・i・u・e・o）が連続するとき
・au（ア段＋う・ふ）→ ô
・iu（イ段＋う・ふ）→ yû
・eu（エ段＋う・ふ）→ yô

●係り結び…係りの助詞が用いられると、結びの部分が変化する。
・係りの助詞
「ぞ」「なむ」「こそ」…前の語の強調
「や」「か」…………疑問・反語
（例）ひいふつと　射切つたり。
ひいふつとぞ射切つたる。（「ひいふつと」が強調される）

確認テスト 本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) 次の文の（　）に当てはまる言葉をそれぞれ選びなさい。

『平家物語』は（①）に成立した（②）である。

ア 平安時代　イ 鎌倉時代　ウ 室町時代
エ 歌集　オ 軍記物語　カ 随筆（ずいひつ）

①〔　　〕②〔　　〕

(2) 『平家物語』の説明として適当なものを選びなさい。

ア 仏教の無常観を基調として、源氏（げんじ）一門の栄華と滅亡とがえがかれている。
イ 和語のみの文体で独特の調子があり、語りものとしても親しまれてきた。
ウ 琵琶法師らによる、琵琶に合わせた『平家物語』の語りのことを平曲という。

〔　　〕

(3) 『平家物語』の冒頭部分に合うように、（　）に入る言葉をそれぞれ選びなさい。

祇園精舎の鐘の声、（①）の響きあり。
沙羅双樹の花の色、（②）の理をあらはす。
おごれる人も久しからず、ただ（③）のごとし。
たけき者もつひには滅びぬ、ひとへに（④）に同じ。

ア 風の前の塵　イ 盛者必衰
ウ 春の夜の夢　エ 諸行無常

①〔　　〕②〔　　〕③〔　　〕④〔　　〕

(4) 『平家物語』の冒頭部分の内容に当て**はまらない**ものを選びなさい。

ア 祇園精舎の鐘の音には、万物は移り変わり、不変なものはないのだと伝えるような響きがある。
イ 沙羅双樹の花の色は、勢い盛んな者も必ず滅ぶのだという道理を示している。
ウ 春の夜の夢のように、おごりたかぶる者の栄華は久しく続いていく。
エ 風に吹（ふ）き飛ぶ塵と同じように、勇猛（ゆうもう）な者もついには滅んでしまう。

〔　　〕